

活かせ！ 魔法

長寿ささえ
子育て・くらし
応援します！

日本共産党
川西市議会議員



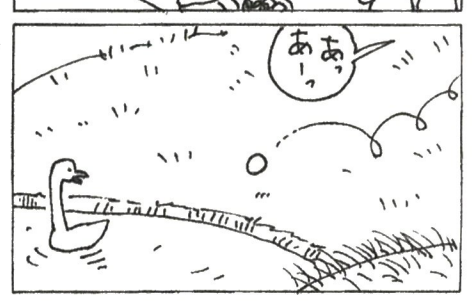
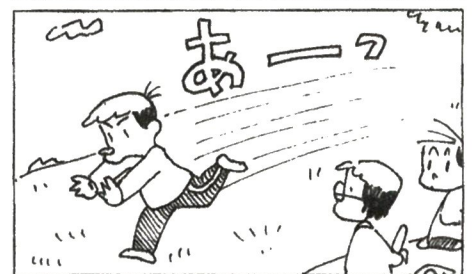
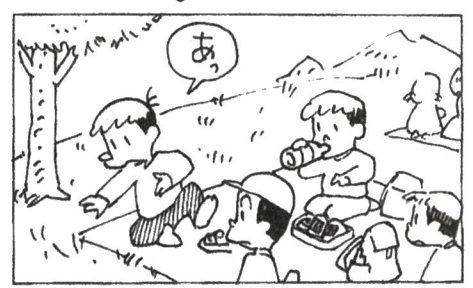
黒田みち

〒666-0152 川西市丸山台3-2-113
TEL-FAX 072-790-3055
携帯 090-9987-7909
kuromamecha@ezweb.ne.jp

たんぽぽだより No247
2023. 5.6月

(13) 【社会】

ましまる 地 <16867>
オダシテ



僕は声を上げ続けます

「安保3文書」は戦争をしないと言った戦後の日本のありようを根本的に変えるものです。「専守防衛」を逸脱して、平和主義を投げ捨てることを閣議で決めてしまおう。暴走どころの話ではないです。防衛費を今後5年間で43兆円にまで増やして米国や中国に次ぐ軍事大国にしようなんて、多くの国民は堪えないと思いますよ。

今、起きていることは「戦争のできる国」への道です。沖縄

ジャーナリスト 金平 茂紀さん

はその最前線にあります。先日、沖縄の与那国島に行きました。島には自衛隊のミサイル部隊が配備されつつあります。取材のためにレンタカーを借りようとしたら、残り1台しかありませんでした。ほかの車はみんな工事関係者が使っているというのです。

島民の中には、自衛隊誘致に賛成でもミサイル部隊が配備されることには反対の人がいます。戦争になったら真っ先に自

分たちが標的になることを分かっているのです。反対の声をあ

るにもかわからず問答無用で配備を進めるやり方は、あまりにも強引です。

こうした沖縄の現状をよそに大手メディア幹部・OBが「安保3文書」改定に向けた有識者会議のメンバーとして参加して

いました。ジャーナリズムの間として恥ずかしい限りです。メディアは公権力（政府）と常に緊張関係を持たなくては



お申込みは
黒田みち まで

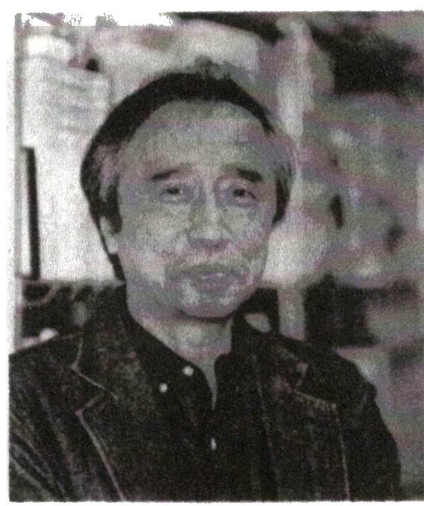
日刊紙 3497円
日曜版 930円

潮流

突然つかまれた足首の感触は今も残っています。足元から聞こえてきた「水…」の声。走って家にもどり井戸水をくんで飲ませると、その人はがっくりと息絶えました▼目もくらむ閃光、すさまじい爆風、黒い雨。火の海に包まれた街、皮膚が垂れ下がった血まみれの人びとの無言の列。毎日遺体を焼く煙においが流れ、焼け跡のむこうの海が近く見えた。8歳になったばかりの少女の、あの夏の記憶です▼広島で被爆した小倉桂子さん。原爆資料館でG7の首脳たちに自身の体験を語りました。ここで起きたことを追体験してほしいと。「地球上から早く核兵器をなくして」。その訴えを、どう受けとめたのだろうか▼核兵器廃絶を求める声があがります

被爆地での開催。ところが、G7が出した核軍縮に関する「広島ビジョン」では、核兵器には役割があると存在を肯定しています。なくすための努力も決意もなく、核兵器禁止条約にも触れないで▼広島開催にこだわったという岸田首相はバイデン米大統領との会談で核の「抑止力」や「核の傘」にしがみつく姿を明らかに。沖縄に核攻撃の能力をもつ米軍戦闘機が配備され、広島には「核のボタン」が持ち込まれる。恥ずべき欺瞞をさらしながら▼独学で学んだ英語を生かし、通訳としても被爆者の声を世界に発信してきた小倉さん。各国の外相にこう呼びかけたこともありま

2023. 5. 21



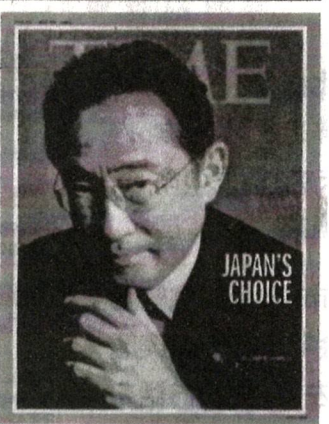
岸田大軍拡 異議あり

「何をやっているんだ」と。僕は昨年2度ウクライナに行き、日本の憲法9条の価値を改めて実感しました。でも政府や一部野党は、ウクライナで起きている戦争を奇貨として「自分

が攻められたらどうするんだ。敵を攻撃する能力も必要だ」と勇ましいことを言っている。戦争は究極的には人殺しです。一番の被害を受けるのは一般市民です。これ以上「殺すな」といいたい。

米誌タイムが報道

米誌タイム5月22・29日号は、岸田文雄首相を表紙とする同首相の特集記事を掲載します。11日までに電子版で公開しました。表紙では「日本の選択」と題し、「岸田氏は数十年にわたる平和主義を放棄し、日本を真の軍事大国にすることを望んでいる」と断じています。



米誌タイム5月22・29日号 (同誌ホームページより)

記事では、増大する中国の影響力を抑止しようと狙う米国の求めを受けて、「岸田氏は、世界第3位の経済大国(日本)を、それに見合った軍事力のある大国にしようとしている」と分析。中国が日本近隣で軍事演習を行う等の状況に対抗するため、「彼は昨年12月に、第2次世界大戦後、最大の軍拡を公にした」と「安保3文書」について触れています。日本の平和憲法や「核

兵器のない世界」を目指すとする岸田氏の姿勢と再軍拡が相いれないという見方があることも指摘しました。

広島市の被爆者で反核平和活動家のサーロー節子さんが、「核兵器のない世界」に向け取り組むことが最優先課題と言ったが、現時点では、彼は私たちをだましていると思う」と語り、岸田首相の軍拡路線に警告を発していることも伝えています。

岸田氏は真の軍事大国化望む